

## 戒壇

金堂の西には、僧や尼の正式な叙階の際に仏教の教理が伝えられる戒壇がある。この壇の頂上には仏舎利塔があり、その下には、鑑真によって日本にもたらされた歴史上の仏陀の舎利が安置されています。

僧たちは誓いを立てるとき、仏の舎利に誓います。

とりわけ、すべての生き物の命を尊重し、盗みや詐欺をしないことを約束します。そして、毎月8日間、大きな寝床で寝る（贅沢を象徴する）こと、夕食を食べること、雨が降ったとき外出すること、または映画を見ること等を控えなければなりません。

日本において仏教が普及する上で、戒壇は重要な位置を占めます。

鑑真は中国から到着して1年後の754年に、東大寺で日本の戒壇の建設を支援しました。これにより、海外に出家志望者を派遣するのではなく、ここで奈良の六宗派それぞれから僧侶や尼の正式な授戒式を行うことができるようになりました。

もう一つの戒壇は、鑑真が唐招提寺を759年に創設した際に作られました。すべての仏教宗派の同様の儀式がそこで行われましたが、各宗派がそれぞれの本山で独自の戒壇を作ったため、後に複数の宗派が同じ戒壇で授戒する機能は失われました。

唐招提寺の元の戒壇は、中世に荒廃してしまい修理されたが、その大部分はその後火災で破壊されてしまいました。今日残っているのは、3層の石の祭壇だけです。祭壇の上には、インドの古代のサンチーの古塔に似せて設計された仏塔が1978年に建てられました。